

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070100296		
法人名	社会福祉法人 浩和会		
事業所名(ユニット名)	竹の里園		
所在地	和歌山市明王寺3-1		
自己評価作成日	平成30年11月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3070100296-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成30年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の郷公園に隣接した自然豊かな環境の下、四季折々の行事を多く取り入れながら、ゆったりと生活して頂いている。又地域住民に開かれた施設作りのため、併設の特養中心に盛大な夏祭りを開催したり、地域の芸能大会に参加している。またボランティア訪問や、地域の児童・園児との交流の機会を設け、地域交流を深めている。さらに、併設の診療所や、特養の看護師との医療連携が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や竹林など自然に囲まれた静かな環境にあり、併設の事業所や地域の方々と季節を通して互いに交流を深め、協力関係を密に行っている。また、医療面では、診療所や特養の看護師と連携がとれており、入居者が重度化の場合は、本人も家族も安心して生活ができるよう、支援体制が整っている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「利用者様の立場に立ったサービス」を心がけ、管理と職員は利用者が笑顔で暮らして頂けるように支援している。また理念を玄関とスタッフルームに掲示している。	理念は掲示され、ベテランの職員は心得たうえで業務についている。入居者の状態が変わりゆく場面もあるが、その状態ごとの立場に立った支援を検討することで日々のケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設との合同夏祭りを盛大に開催し、地域の人たちと交流を図っている。又、老人会主催芸能発表会に参加したり、地域の幼稚園との交流も定期的におこなっている。また、月1回開催される「いきいきサロン」への参加希望者もあり、健康体操を行っている。	併設の事業所と合同でイベントに参加することや、地域の方々や幼稚園児の訪問を随時受けるなどして交流をもっている。また外出の機会も心掛け、老人会、幼稚園の発表会に入居者とともに訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会主催の行事に当法人の施設を提供し、地域の人々に立ち寄ってもらえる機会を作り、利用者との交流を通して理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催し、グループホームでの暮らしをスライドショーで説明、情報の共有を図っている。また、地域代表の委員がとても積極的に地域の人々との交流の場を作ってくれている。	家族、地域包括支援センターの職員、市職員、管理者、公民館長、民生委員、幼稚園長、事業所職員などが参加し、日頃の暮らしを情報交換している。スライドを用いてより解りやすく工夫されている。意見、要望については検討し、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、特養の事務職員を通じて、様々な情報を得ている。また、運営推進会議には、包括センターの職員に出席して頂き、情報の共有を図っている。	併設の特養に地域包括支援センターがあり、入居者の状態に合わせたケアの調整などは丁寧を検討することができる。それら以外で市との交渉が必要な場合も随時相談することができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修委員会が開く身体拘束に関する研修には全職員参加し知識の共有を図っている。また身体拘束推進員を置き、職員一同、特に言葉の拘束に気を付けている。	年間計画の内部研修及び外部研修に全職員が参加し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、職員の見守りとして声掛け、目配り、気配りなどを特に意識しながら入居者の安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の内・外研修に参加している。又、入浴時には、必ずボディーチェックするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方がいらっしゃるの、職員も関心を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定等の際は、家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議の席上で意見を聞いたりして、気軽に話が出来人間関係を築いている。また意見箱も設置している。	家族等がイベント、面会、運営推進会議に参加した際に、雰囲気配慮のうえ要望等を問いかけ、双方向のコミュニケーションで意見をくみ取り運営に反映させている。アンケートを取ることも実施し、意見の収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議などで意見や提案を聞き、日々話し合いをしている。	管理者との職員面談で意見を聞くことや、会議において直接ケアに関わった現場ならではの気づき等を協議することで、内容を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、職員の向上心を育成している。また、安全衛生委員会を中心に職員のストレスチェックやアンケートを行い、職員の意見にも傾聴するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には年間研修計画があり、2か月に一度職員全体研修を行っている。また個人のスキルアップのため研修の受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症支援協会に加入し、情報を得ようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人及び家族と面接の機会をつくり、居宅での生活状況・趣味・好き嫌い等できるだけ把握し、サービスの開始にそなえている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入所前の面接時に家族の要望をしっかりと聞き、入所後のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及びその家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを家族やケアマネジャーともよく相談し決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を、干したり畳んだりお茶を入れて頂く等、毎日の生活を通し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連絡を取り合い、できるだけ来園していただけるよう協力をお願いしている。又、家族にも参加していただける季節行事(花見、夏祭り、敬老会)を組み入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親類や知人との関係が途切れないよう、家族にも協力を依頼し、アルバムを持ってきてもらったり、お墓詣りに連れて行ってもらうたりしている。	入居者の体調面の不安から手紙、年賀状、電話など少なくなる傾向である。しかし、家族の協力を受けてお墓参りや、知人との面会、また併設のデイサービスや事業所へ訪問するなど、知り合いとの人間関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者が話をしたり、一緒に洗濯物をたたんだり、日常生活の中でお互い助けあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所され、特養に入所された方について、転入先の職員と情報を共有し、直接的、間接的に支援関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者同士の会話や職員との関わりで、本人の思いや希望を把握し職員間で検討するようにしている。	意向を表現することが困難な入居者もいるが、日々の行動や表情を注意深くとらえ、また家族から要望を聴くなどして「本人本位」を職員間で協議するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の御家族との面接時や面会時などに、随時情報収集を行い把握するようにしている。また入居以前に利用されていた施設職員からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を独自の一覧表に記入したり、申し送り時の連絡・報告で入居者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に話合った内容や、職員間で随時話し合っている内容を計画に反映させている。	本人や家族と向き合い、管理者・職員の意見、要望も交え、また関係者からの情報等を総合したうえで、生活をモニタリングし現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行い、日中・夜間に分けた介護記録を作成し、職員間で情報共有しながら、日々の支援に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時併設の事業所と情報交換を行ったり、メディアを通して得られる情報も広く収集し、グループホームで活用できる体操等を日々の生活の中に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社のお祭りや、地域老人会主催の芸能大会に参加し、楽しく暮らせるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設されてる診療所医師により、常に健康管理してもらえ、また、希望により入所以前のかかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	協力病院の定期往診を基本とするが、入居前からのかかりつけ医での診療も受けられる。その場合、通院介助は家族の同行・協力を得ている。また、結果報告は、管理者に伝え職員や関係者で共有し、連絡帳にも記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された特養の看護職員に体調の変化を随時報告・相談し、適切な助言や指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療病院契約を締結しているので、家族の協力を得てスムーズに入院の支援ができています。また、入退院時には、病院の地域連携室と情報を共有し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについて、本人や家族と話し合い、グループホームでできる内容を理解してもらって事前調査書を作成しており、併設施設への転居も含め安心・安楽な支援となるよう努めている。	終末期ケアの勉強会、看取り対応など、支援に必要な環境を整えている。また併設施設への転居も含め、入居者、家族と相談しながら、安心した生活ができるケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥等の対処方法や、AEDの使用法の研修を受け急変や事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に昼夜を想定した消防・防災避難訓練を行っている。備蓄品に付いても3日分準備しており、他の事業所や地域の消防団との協力体制もできている。	消防訓練は、年二回、消防機関が立ち会いのもと、併設の施設と地域との協力も得ながら、入居者とともに、避難訓練を実施している。職員は、連絡網、誘導、消火器の使用法について再確認しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人の立場にたった思いやりある言葉かけをし対応している。職員間もお互い注意し合うようにしている。	個人情報の書類等は目に触れない所に保管している。また、声掛け、プライバシー等、守秘義務に注意し、職員間でも互いに確認しあい配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつメニューを一緒に考えたり、着る洋服を出来るだけ自己決定して頂ける様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援をしたいと思っているが、実際に一人ひとりのペースに合わせる事が難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問美容師による理美容が利用できる。又同じ衣類の着用にならないよう、職員が衣類選びにアドバイスしたり、気分転換を兼ねたおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、出来るだけ利用者と職員と一緒に準備、片付けするようにしている。	調理の音、香りがリビングに漂う中、入居者それぞれができる範囲で、食事の支度に参加している。おやつ作り、外食などは入居者の意見を聴きながら、四季折々のメニューに触れるよう検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方には、必要に応じて様々な種類の飲み物を提供して水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝、紅茶うがいと就寝前の義歯洗浄を励行している。朝と就寝前の歯磨き時には必ず見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の意思表示を出来ない方も含めトイレ誘導を行っている。	排泄はチェック表で記録し、本人の状態を観ながら、出来るだけトイレで出来るように配慮している。意思表示が困難な入居者も出てきている現状でもあるが、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使うよう心がけ、コーヒーやポカリ、好きな飲み物も提供し、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男性が入浴する日と女性が入浴する日を決めているが、希望に応じてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴拒否をされる方にも気分転換を図りながら、入浴して頂けるよう促している。	入浴は隔日であるが、入居者の希望に応じて実施している。拒否する方もあり、タイミングを見計らい、声掛けに配慮しながら足浴で対応をすることもある。また季節感を感じられるように、菖蒲、柚子、入浴剤等使用し、楽しい入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に、リビングのソファや畳の間でくつろいだり、居室で昼寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの投薬一覧表を作成しており、職員はいつでもそれを見ることが出来る。薬は日付、利用者ごとに分けて職員が管理し、服薬介助見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物等出来る方には手伝って頂き、自由に過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的に困難になってきている方もおられ、十分な外出行事が出来ないが、家族の協力を得てドライブ墓参り等外出が出来るよう支援している。	入居者の状態を観ながら、庭での日光浴や、ドライブ、家族の協力を得た墓参りや、併設施設でのイベント参加や、地域での行事に参加するなど、外出は楽しみの一つとなっている。参加出来る方が少なく困難になってきている側面もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解して管理出来る人は少ないが、理解出来る人は買い物等一緒に行ったとき、支払いしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症が進行し、電話をかけられない方もいらっしゃるが、いつでも、スタッフルームから電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が広く明るく快適に過ごせるようになっている。又空気の流れ換え、エアコンの調節等スタッフが気を配り、居心地よく過ごせるよう心掛けている。	リビングから見える日当たりの良い庭や、竹林、桜等、自然環境が心を癒してくれる。リビングの広いスペースには、畳の部屋があり、テレビの前には大きなソファが設置され、入居者は好みの場所で思い思いに過ごせるように、工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングがあり、気のあった利用者同士で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物や好みの物を、自由に持ってきて頂き、落ち着いて過ごせる居室作りをしている。居室でテレビを見て過ごされている時間も尊重している。	季節感が感じられる掲示・飾りが工夫されており、居心地のよい雰囲気づくりが工夫されている。入居者それぞれでテレビ、家具、好みの物、写真等が整理されており、その人らしい暮らしを送ってられると伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物は安全の為、室内で利用者と一緒に干し、外に出すようにしている。トイレの場所はよくわかるよう表示している。		